

# 昭和肥料ニュース FAX版



Vol. 031

## もし、「鶏糞でつくる」と言われたら

残念ながら肥料価格は今後も高止まりする可能性が非常に高い状況です。そこでコスト削減のため安価な鶏糞主体の施肥体系が増えるかもしれません。

ご存じのように鶏糞は「安価」「窒素高めで速効的」などの利点がある一方「肥効が安定しない（小まめな追肥が必要）」「土が硬くなる」「病気や雑草が増える（未熟品使用）」「販売しても利益が取れない」「微量元素効果が出にくい」などマイナス面を指摘する声も聞かれ、使い方次第と言えます。

### 【鶏糞の上手な使い方の基本をおさらい】

- ①完熟品使う（未熟品は堆肥化後の施用、又は作付け1ヶ月以上前の早期施用）
- ②使い過ぎない（必要なりん酸分を補給できる量までの使用を基本とする）
- ③土を柔らかくする施作を併用（緑肥、腐植資材、多孔質資材、微生物資材等）

基本を守らないと発生する、困った事態として…

- ①病気多発、ガス害発生、雑草の繁茂（植え直し、薬剤代で返ってコスト高に…）
- ②りん酸・カルシウム過剰害、作物品質の低下、ハウスでは発芽障害
- ③排水性の悪化、団粒構造の崩壊 これらに起因する連作障害の発生

特に現場で問題となりがちなのは②です。安価なため3要素すべてを鶏糞で賄おうとしたり、知り合いの鶏屋さんに押されたり（畜産農家のお任せ施肥はダメ、絶対）して使い過ぎ、土を壊すケースを目にします。

### 【提案するなら・・・】

まずは基本①～③を守らせ、合わせて

- ①ケイ酸・苦土も施用する（栄養バランスの補正）
- ①鉄資材の併用（水稻ではガスわき対策に必須です）
- ①効く薬剤を、適時に提案する（特に除草剤）
- ②必要りん酸分の8割程度は鶏糞で、残り2割は化成由来にする（初期生育の安定、特に低温期）
- ②発根促進系資材の併用（溜まった肥料分の有効化）
- ③貝化石の併用（ふかふかの土づくり、肉鶏糞向け）
- ③硫黄資材の併用（適正pH維持→生物性改善）

などいかがでしょうか？

鶏糞だけの持続的安定生産&品質向上は難しく  
鶏糞を補う資材に商機あります。



### 粒状ジブライト

鶏糞はカルシウムを含むから  
カルシウム資材は不要？  
それは間違いです。

鶏糞のカルシウムは土壌をアルカリ化します（特に卵鶏糞）しかし、作物が吸収する栄養としてのカルシウムは足りていない（吸えていない）  
ことが多いので注意が必要です！